

全国の市町村のなかで男性長寿日本一である長野県松川村の福祉施策に関する一考察

新潟医療福祉大学社会福祉学科
豊田保, 山崎美夏, 柳田真実

【背景・目的】2010年度の国勢調査に基づいて、2013年に厚生労働省が発表した自治体ごとの長寿ランキングにおいて、長野県松川村は男性長寿日本一（82.2歳）とされた。なお、自治体ごとの長寿ランキングで男性の最下位は、大阪市西成区（72.4歳）で、松川村との間に約10歳の差が存在する。一般論として、この10歳の長寿年齢の差を地理的自然的な要因をもって説明することは困難である。そこには、自治体の保健・福祉施策をはじめ、社会的な要因が関与していると考えられる。

本抄録の目的は、男性長寿日本一に寄与していると考えられる松川村の保健・福祉施策について考察するとともに、併せて、松川村社会福祉協議会の地域福祉活動や住民団体による自発的な福祉活動など、男性長寿日本一に寄与していると考えられるインフォーマルな地域福祉実践の現状についても考察することである。

【方法】長野県松川村を訪問し、松川村の保健・福祉施策について、松川村福祉課、松川村社会福祉協議会、民生委員、自治会役員、住民団体代表に対する半構造的インタビュー調査を実施し、インタビュー結果を総合的に考察し、男性長寿日本一に寄与しているフォーマル、インフォーマルな要因について抽出する方法を用いる。

【結果】インタビュー調査の結果を以下に提示する。

松川村福祉課は、男性長寿日本一について、①保健補導員・食生活改善推進協議会員による生活習慣病予防、がん予防、介護予防等の活動の展開、②保健師・栄養士が特定健診の未受診者を訪問し、受診率を向上させた、③保健師・健康運動指導士が介護保険二次予防事業対象者を訪問し、介護予防教室への参加者を増やした、④18歳までの医療費を無料化したことによる就学前幼児の転入増加、を指摘している。

松川村社会福祉協議会は、2013年度、高齢者を対象にした「ふれあいサロン事業」を98回、軽度認知症高齢者を対象にした「ふれあいコミュニティ事業」を50回実施している。

民生委員・児童委員協議会長は長寿の要因について、村民の多くが家庭菜園を保有し、体を動かす機会が多いこと、17の地区ごとのサロン活動や各種の住民サークル活動が活発であることを指摘した。

自治会の役員は、村内の17地区ごとの「ふれあい会」などの住民活動やボランティア活動が活発であることを指摘した。

住民団体である「劇団すずの音」の代表者は、中央公民

館に登録されている住民サークルが約160団体あり、住民の自発的な活動が活発であることを指摘した。

【考察】山根宏文は松川村の平均寿命である82.2歳以上の男性住民198名に対する調査を行っているが、調査対象者の約25%が3世代・4世代での家族との同居生活である（2010年の国民生活基礎調査では65歳以上の3世代以上の全国における同居率は16.2%）こと、9割を超える住民が家庭菜園や趣味の活動を楽しみ、高齢者住民の半数以上が地域行事に参加していることなどを提示している。また、2013年秋の長野県広報誌「ながのけん」では、松川村の男性長寿日本一について、①高い野菜摂取量、②低い肥満者の割合、③高い高齢者就業率、④盛んな公民館活動、を挙げている。

【結論】松川村の男性長寿日本一に寄与している要因を総合的に判断すると、第1に、村の保健福祉施策である保健補導員などによるフォーマルな施策である生活習慣病予防や介護予防等の17の地区を基盤にした健康増進活動の推進、特定健診受診率と特定保健指導率の実施率の向上などの効果が指摘できる。

第2に、17地区の地域公民館を拠点にした「ふれあい会」や中央公民館に登録している住民サークルが約160団体も存在し、高齢者を含めた住民の自発的な活動が活発に展開され、家庭菜園での農作業を行っている高齢者が多いなど、高齢者の社会参加や趣味の活動が積極的に行われていることが挙げられる。

【文献】山根宏文『男性長寿日本一松川村 ご長寿訪問による調査報告書』松本大学、2014
長野県広報誌「ながのけん秋号」長野県、2013

【謝辞】本研究は、平成26年度新潟医療福祉大学研究奨励金（人文社会系研究費）によって実施したものである。記して謝意を表明する。